

＜北海道熊研究会 会報＞ 第71号 2017年 6月 27日

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

既報会報の1～66号はWebsiteに「北海道野生動物研究所」と入力しご覧下さい

ご意見ご連絡は本紙送信 email ではなく、下記の email へお願い致します

e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

＜第5報＞

ルシャ川・テッパンベツ川 両河口域での 3 カ年間(2013 年、2014 年、2015 年)の熊
U.arctos に関する調査報告 門崎 允昭・稗田 一俊・PETER NICHOLS

＜各期の調査結果＞

各期(①～⑦)の熊に関する調査知見は下記の通りである

＜調査時期①＞

2013 年 10 月 2 日～5 日 鮭の河川の遡上有り。

- ① (成獣)ポンベツ川西方、クルミの樹の傍で、落ちた実を拾い食い。♀成獣(排尿で確認)1 頭。実の外皮を剥ぎ、堅果だけを食べていた。外皮には毒があることから、外皮は食べないものである。この毒をアイヌは矢毒に使う。
 - ② (2 歳代熊)ルシャ川の築堤上で、2 歳 8 ヶ月令(体形で判断)1 頭が、鮭を食って居た。
 - ③ (若熊)ポンベツ川で、1 歳 8 ヶ月令(体形で判断)1 頭が、鮭を獲り食って居た。
 - ④ (母子)ルシャ川で、1 歳 8 ヶ月令(体形で判断)2 頭連れた母子が、2 組鮭を獲り食って居た。
 - ⑤ (母子)テッパンベツ川で、1 歳 8 ヶ月令(体形で判断)2 頭連れた母子が、鮭を獲り食って居た。
 - ⑥ (成獣)テッパンベツ川左岸の崖上に、成獣(体形で判断)1 頭が出現した。30 分程、テッパンベツ川で、鮭を捕食する母子を見下ろしていたが、奥地に退去した。
- (註) 当該地の母熊は、子が満 1 歳代で、自立させる事が、多いと言うが、④と⑤の子は、満 1 歳 8 ヶ月令(体形で判断)であり、何時、子が自立するか、検証の必要がある。

＜調査時期②＞

2013 年 11 月 13 日～17 日 鮭の河川遡上有り。

- ① (成獣 4 頭、体形で判断)ポンベツ川の西約 300m 地点の海浜部で、ゴマフアザラシの若獣を喰っている熊を発見。ほどなく、山側に熊 3 頭が次々と出現、取り合いを演ずる。これらの熊は、海から陸に向かって吹く風を含む、人間には感じ得無いアザラシの微弱な死臭を感知し、寄って来たもので、その敏感さに驚きを感じた。強い個体から、獲物を食べる。頭骨上部のみ残し、他は皮も含めて総て食べてしまう。
- ② (母子)テッパンベツ川で、9 ヶ月令(体形で判断)2 頭連れた母子が、鮭を獲り食って居た。子は 2 頭とも自立心が強く、鮭を食べた後、母から 100 m 程、離れた左岸の崖で遊んでいた。
- ③ (2 歳代熊)ポンベツ川で、2 歳 9 ヶ月令(体形で判断)1 頭が、鮭を獲り食って居た。
- ④ (成獣 1 頭)ルシャ川で、成獣(体形で判断)1 頭鮭を獲り食って居た。

⑤ (成獣1頭)テッパンベツ川で、成獣(体形で判断)1頭鮭を獲り食って居た。母子3頭の熊②が、現れたら、この熊は左岸の崖を登り、消えた。

<調査時期③>

2014年6月18日～21日 鮭鱒の河川遡上はまだ無い。

- ① 19号番屋西側で、(若熊)、2歳4.5ヶ月令(体形で判断)1頭、徘徊。
- ② (若熊)ボンベツ川で、1歳4.5ヶ月令(体形で判断)1頭が草を食み、石を起こして、下に居る蟻を食べていた。河岸の石に濡れた足跡があり、横幅が12cmであった。
- ③ (成獣1頭)テッパンベツ川左岸の崖に、成獣(体形で判断)1頭が居た。
- ④ (母子)ボンベツ川左岸に、1歳4.5ヶ月令(体形で判断)2頭連れた母子が居た。前記の若熊(1歳4.5ヶ月令)と、数分まで近づいたが、トラブル無く分かれた。両者はなじみがある様子であった。
- ⑤ (母子)テッパンベツ川で、4.5ヶ月令(体形で判断)2頭連れた母子が居た。

今年の多分春(融雪期)に、テッパンベツ川の河口から、凡そ2km上流地点の、右岸斜面が大崩落し、土砂が流路を阻害し、その土砂が、下流に拡散し、川底に沈殿し、流水が白褐色化し、テッパンベツ川では、魚類の遡上が全く無い。

調査時期③の2014年6月18日～21日(4日間)の際、テッパンベツ川では、魚類の遡上が全く無く、流水が白褐色化し、川底に粘土質土壌が沈殿し、産卵床が埋まっている事を知った。そこで、川伝いに検分に行った結果、凡そ2km上流地点の、右岸斜面が、2014年の多分春の融雪期に、目測だが、川面から高さおよそ200mの所からその下部の土砂が、大部分立木と共に大崩落し、川を堰き止め、その土砂が下流に拡散し、川底に沈殿したことが原因と識った。2015年10月には、川底に沈殿していた土砂が、流失し、水も澄んでいたが、魚の遡上は全く見られなかった(調査時期⑦の知見)。

<調査時期④>

2014年9月25日～28日 鮭鱒の河川遡上有り。

- ① (母子)テッパンベツ川で、8ヶ月令(体形で判断)2頭連れた母子が、母子とも鮭を獲り食って居た。2頭の子は、格闘してよく遊ぶ。
- ② (母子)テッパンベツ川で、8ヶ月令(体形で判断)1頭連れた母子が、母子とも鮭を獲り食って居た。母の首に発信器装着されている。
- ③ (母子)ルシャ川で、8ヶ月令(体形で判断)1頭連れた母子が、母子とも鮭を獲り食って居た。
- ④ 発信器着けた単独個体、体形から満4歳ほどと見た。
- ⑤ (成獣1頭)テッパンベツ川に、成獣(体形で判断)1頭が居た。短時間漁獲し喰い引き上げた。
- ⑥ (成獣1頭)ルシャ川に、成獣(体形で判断)1頭が居た。短時間漁獲し喰い引き上げた。

<調査時期⑤>

2014年11月2日～5日 鮭の河川遡上有り。

- ① (母子)テッパンベツ川で、9ヶ月令(体形で判断)2頭連れた母子が、母子とも鮭を獲り食って居た。2頭の子は、格闘してよく遊ぶ。
- ② (母子)テッパンベツ川で、9ヶ月令(体形で判断)2頭連れた母子が、母子とも鮭を獲り食って居た。前記母子とは異なる新顔である。
- ③ (母子)ルシャ川で、9ヶ月令(体形で判断)1頭連れた母子が、母子とも鮭を獲り食って居た。母の首に発信器装着されている。
- ④ (母子)ボンベツ川左岸に、9ヶ月令(体形で判断)2頭連れた母子が居た。
- ⑤ (成獣1頭)テッパンベツ川で、成獣1頭が、鮭を獲り食って居た。新顔である。(了)